

玉川地区学校適正配置地元代表協議会 中間まとめ

	質問等	事務局回答等
学校に関する こと	1 小学校の適正規模は、12学級以上ということだが、玉川の2つの小学校を統合し、35人学級編成としても、12学級に届かない。そんな中で、第2回協議会の資料にある、メリット・デメリットが果たしてその通りなのか。	統合して学年2クラスできない場合においても、適度な人数(過少規模過ぎない)での学級編成ができれば、クラスに一定の人数がいることにより、学習面で大きな集団での学習活動や小さなグループでの学習活動など多様な学習形態にある程度対応できるようになることや、コミュニケーション能力を身につけて行くこと等、メリットは大きいと考えている。(少人数によるきめ細かい指導等のメリットは、教員配置やチームティーチング等により利点を損なわない指導も可能であるが、人数が少なすぎる事による、集団の中でのコミュニケーション能力の育ちや、学習面で場面に依りてのグループ編成に幅を持たす事ができない等のデメリットについては、教員の努力によっても根本的な解消は難しい。)
	2 統合しても、今後、学年1学級にしかならない。適正な統合なのか。	その上で、9年間同じクラスで人間関係が心配ということについては、統合校では、児童生徒の心理的な面を十分ケアするとともに、市の嘱託教員の増員配置や、統合前の教師をバランスよく配置する等十分な配慮をして行くことにより、デメリットについては十分対応可能だと考えている。
	3 小学校1クラス、中学校に上がってもそのまま1クラスというのは、いかがなものか。	新たな人間関係での心配な点は十分に理解するが、その点だけで統合を考えるのではなく、他の学習面や人間関係のメリットも考慮した上で前向きな検討をお願いしたい。
	4 先生の目が行き届きにくくなるのではないか。	玉川に小中各1校は、できるだけ残し、玉川の歴史を受け継いでもらいたい。ただ、複式学級という形が見えてきたときには、このように相談しながら再度協議したいと考えている。
	5 現在は、小学校でもしいじめがあっても、中学校にあがるときには、小学校2校が合同になるから、そのいじめが消えることがある。小学校が統合すると、中学校までずっと継続していじめがあると考えていかなければならない。	校区制度というのがあるので、子どもは地域の学校に行くというのが原則である。
	6 今後も、小学校、中学校の人数が減ってくる。そうになると、また統合を考えるのか。	距離にもよるが、通学バスというような対応策を考えていかなければならない。
	7 (統合し、九和小学校に通学する場合)清水小学校等、近隣小学校への入学を視野に考えている。	地元代表協議会や、仮に統合が決定した場合に設置する統合準備会において、十分に検討していきたい。
	8 通学手段が気になる。学校は近い方がいい。	教育委員会としては、いじめ、不登校対策を第一と考え、命を大切にする教育を進めている。ただ、教員だけでは対応できない部分もあり、保護者、地域の方がお気づきの点があれば、学校へ連絡していただきたい。
	9 通学がバスになった場合、どこまでケアしてくれるのか。特に下校便は、下校時刻が学年によって違う。	子どもたちの教育環境を考えた場合、複式はもちろんであるが、複式となる前の過小規模の学校についても、非常に問題があると教育委員会では認識している。
	10 今治 松山の交通量は、非常に多い。統合した場合、通学時の交通事故に対する配慮をしなければならぬ。	
	11 先般、転校によって、自殺に追い込まれた子のニュースがあった。命より大切なものはない。慎重な対応をしないといけない。	
	12 基本的には、合併に反対だが、複式学級になるのであれば仕方が無い。	

玉川地区学校適正配置地元代表協議会 中間まとめ

	質問等	事務局回答等
学校に関する事	13 「中学校でどうせ一緒になるのだから、小学校で一緒になっていた方が、そこで仲良くなれて、かえっていいのではないか。」という地域の方がいた。	子どもたちが、集団の中で、学習面はもちろん、多くの友人の様々な考え方に触れ、多様な人間関係の中で切磋琢磨しながら成長していく。教育委員会では、そのような教育環境が必要であると考えます。
	14 鈍川に住んでいるが、私の子どもは、鈍川小を経験せずに、九和保育所・九和小学校に行っている。たくさんの友達ができている状況を見ると、良かったと思っている。	
地域に関する事	15 鴨部小の上側が谷あいになっており、大きな石などが崩れてきたことがある。小学校が避難所に指定されているが、このままでいいのか。学校自体も被害があった。	こういう所が避難所として適当だということがあれば、行政の担当へ言っただけならば、対応が可能ではないかと思う。
	16 鈍川地区のように、学校がなくなると、地域も消滅するのではないか。	学校は、教育施設であると同時に、災害時の避難場所であったり、地域の文化・スポーツの活動拠点であったりと、地域の拠点的な役割を担っており、そのような、地域の文化施設、精神的支柱という側面を踏まえる事は非常に重要な事である。 しかしながら、やはり、小中学校は、「子どもたちの義務教育としての施設」であり、「子どもの学習の場としての機能を高めていく」という教育論をやはり第一としてお考え頂きたい。 もしかしたら、「子どものための、教育環境・義務教育施設」という側面から学校が求められる事と、「地域の精神的支柱」という側面とで、地域の中でも、意見のずれが生じる場合があるかもしれません。 その場合、地域から学校がなくなるのは「とにかくだめだ」というだけではなく、仮に学校を統合した場合においても、「地域と学校のつながりをどう維持していくか、また維持して行く方法もあるのではないか。」という観点からも学校と地域社会のあり方についてお考えいただきたい。
	17 地域を活性化してほしい。	地域振興ということは、行政として十分に受け止める必要がある。現在は、教育面からこの現状をどうするか、という議論を進めているが、仮に地域で学校統合について合意いただいた場合には、地域の振興に資する学校跡地等の有効利用も含め、市の関係各部署において十分検討が必要であると考えている。
	18 子どもを育てるには、住んでいる近くに、学校や保育所があったほうがいいのではないか。そういうものが無い所にわざわざ住むのは、無理がある。一端廃止にしたら、復活は難しい。現状の中で頑張っ、地域の宣伝をしながら、すみやすい環境づくりをしていくのが大事なのではないか。	
	19 鈍川地区に立派な学校がそのままあるが、現在、どういう風な状況になっているのか。地域で活用されていないのではないか。	
20 地区へ帰って地域の人々にお話し、協議することもあると思うが、(協議会の内容を公開することは)差し支えないか。	協議会で決定したことを地域の人々に説明することについては、差し支えない。	

玉川地区学校適正配置地元代表協議会 中間まとめ

		質問等	事務局回答等
その他	21	保育所も合併するのではないか。	玉川については、そのような話は聞いていない。 保育所の統合については、以下3つの基準を総合的にみて、地元との協議を進めている。 規模が20人以下になった場合 施設が非常に老朽化している場合 児童数の回復が見込めない場合